



第1回 ウッドファーストあきた 木造・木質化建築賞



写真提供者：株式会社 JR 東日本建築設計



主催：秋田県



○第1回ウッドファーストあきた木造・木質化建築賞の実施概要	1
-------------------------------------	---

○受賞作品の紹介

【最優秀賞】

木造部門 道の駅ふたつ [能代市]	2
木質化・リノベーション部門 旧勇駒酒造（旬菜みそ茶屋くらを） [横手市]	3
屋外空間部門 三共倶楽部・レメデニカホ 木堀 [にかほ市]	4

【優秀賞】

木造部門 秋田ノーザンゲートスクエア [秋田市]	5
木質化・リノベーション部門 株式会社秋田スズキ 本店・本社屋 [秋田市]	6
屋外空間部門 石倉山公園管理棟展望台 [三種町]	7

【佳作】

木質化・リノベーション部門 有限会社石孫本店母屋及び作業蔵 [湯沢市]	8
---	---

○秋田県木材利用促進条例について	9
------------------------	---

第1回ウッドファーストあきた 木造・木質化建築賞の実施概要

1. 目 的

県産木材の需要拡大をさらに推進するため、木材利用により付加価値が創出された木造・木質化のモデルとなる優れた建築物を選出・表彰するとともに県民や建築関係者に向け広く紹介し、普及啓発を図る。

2. 対 象

秋田県内に現存し、良好に維持管理されている建築物等で、次の条件を満たすもの。

○木造（鉄筋コンクリート造や鉄骨造との混構造を含む。）、または、天井、床、壁等の内装や外壁等の外装に木材を使用している木造以外の建築物。または、公園や木塀等の外構に木材を使用しているもの。なお、戸建て住宅(モデルハウス等を含む)、及び国や県が整備したものは除く。

○平成27年4月1日から募集開始の前日までに竣工したもの。

3. 募集部門

- (1) 木造部門
- (2) 木質化・リノベーション部門
- (3) 屋外空間部門

4. 募集期間 令和2年9月17日(木)～11月13日(金)

5. 応募数 計27点

- (1) 木造部門 15点
- (2) 木質化・リノベーション部門 7点
- (3) 屋外空間部門 5点

6. 審査のポイント

○木材の特徴や良さを活かし効果的な使用がされているか。

○新規性（新たな視点）、意匠性（優れた構造・形状・色彩）、環境への配慮（森林保全や地球温暖化防止への貢献）、モデル性（継続・発展性、他への波及効果）

7. 審 査 令和2年11月25日(水) 秋田県社会福祉会館

8. 受賞数 計7点

- (1) 木造部門 2点（最優秀賞1点、優秀賞1点）
- (2) 木質化・リノベーション部門 3点（最優秀賞1点、優秀賞1点、佳作1点）
- (3) 屋外空間部門 2点（最優秀賞1点、優秀賞1点）

9. 表彰式 令和2年12月17日(木) 秋田県児童会館

10. 審査委員

役職名	氏 名	所属機関・団体 職名
委員長	小杉栄次郎	公立大学法人秋田公立美術大学 教授
委 員	板垣 直行	公立大学法人秋田県立大学 教授
委 員	大坂 真一	秋田県木材産業協同組合連合会 理事長
委 員	淡路 孝次	一般社団法人秋田県建築士会 会長
委 員	村田 良太	一般社団法人秋田県建築士事務所協会 会長
委 員	渡辺 伸也	株式会社秋田魁新報社 論説委員長
委 員	佐藤 温	秋田県建設部営繕課 課長
委 員	沼倉 直人	秋田県農林水産部林業木材産業課 課長



【施設の概要】

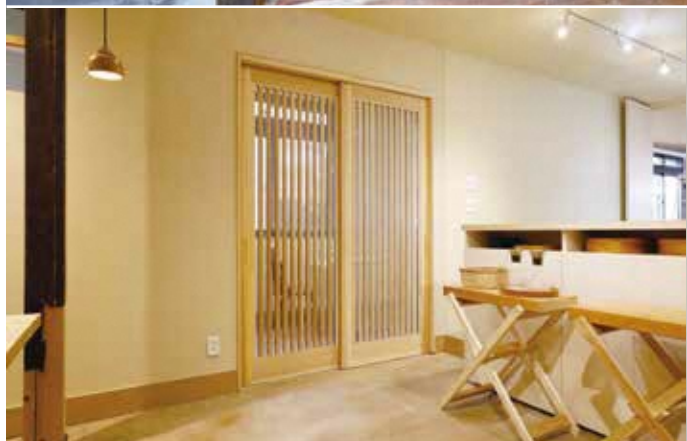
きみまち阪や七座山を望む米代川の河畔にあり、古くから林業・木材産業で栄えた同地域の個性を備えた建物とする基本構想を掲げ、地域材を多用した木造建築として建設された。

アーチ型大屋根にはスギ定尺材を使用した大スパントラス梁を取り入れ、このアーチトラスにより22mの無柱空間を実現したほか、各空間の形状・用途に応じトラスを使い分けている。また、経済性や耐久性、メンテナンスを考慮して材料を選んで使い分け、木造の優位性も確保されており、給湯全般を賄う薪ボイラも導入し、燃料材として地域内のスギ間伐材を有効利用している。

◇県産スギ一般流通材を使用した大規模な架構に加え、内装・外装にも木材がふんだんに使用され、木造ならではのダイナミックな空間を実現していることが評価されました。

施 主	能代市
設 計 者	設計チーム木協同組合
施 工 者	大森・サンワ・成田特定建設工事共同企業体
構 造	木造
階 数	地上2階
延 べ 面 積	2,874.7㎡
木 材 使 用 量	726.7㎡
主な使用樹種	スギ、ヒノキ、ベイマツ

旧勇駒酒造（旬菜みそ茶屋くらを）[横手市]



【施設の概要】

既存の登録有形文化財の建物の外観を変更せずに、内部に樽をモチーフにしたウチイエを木造で建築。既存の壁から離すことで断熱性を高めた快適な飲食スペースとし、発酵文化の新たな発信拠点を実現している。

◇新たな入れ子の秋田スギ材のウチイエにより、特徴のある印象的な空間を創出しており、また、地元の人たちと協同で造り上げるプロセスも木造・木質化のプロジェクトならではの、一層愛着が湧く施設となっている点も評価されました。

施 主	合資会社羽場こうじ店
設 計 者	白砂孝洋建築設計事務所
施 工 者	有限会社岩村建匠
内 容	リノベーション
延 べ 面 積	147.5㎡
木 材 使 用 量	8.3㎡
主な使用樹種	スギ、ヒノキ

三共倶楽部・レメデニカホ 木塀 [にかほ市]



【施設の概要】

企業のゲストハウスだった建物がフレンチレストランを含む複合施設となり、既設の金属製フェンスに代えて導入された木塀である。

県産材を使用した木格子は施設からの眺望を考慮し、取付部で前後交互にクロスさせ耐久性を確保。また、水平方向に透かしが出来ることで外からの視線を抑制しつつ敷地内の施設や庭園とも調和し、町の景観にも趣を与えている。

◇シンプルな塀でありながら、透かしにより造り出される影などが印象的で、街の景観を含めて非常に良好な環境を作り出しており、木材という材料とのマッチングや、細かい部分での丁寧な仕事ぶりも評価されました。

施主	三共株式会社
設計者	S・デザインファクトリー株式会社
施工者	株式会社アーバン造園
構造	木塀
延長・高さ	21.75 m・1.47 m
木材使用量	1.6㎡
主な使用樹種	スギ

秋田ノーザンゲートスクエア [秋田市]



写真提供者：株式会社 JR 東日本建築設計



写真提供者：株式会社 JR 東日本建築設計



写真提供者：株式会社 JR 東日本建築設計

【施設の概要】

バスケットボールの練習専用体育館と、保育所、事務所等を併設した複合施設。

体育館の大屋根は、県産スギ一般流通材を使用した木造タイドアーチと鉄骨造キールトラスを組み合わせたハイブリット構造。耐火性能検証（ルートC）を使い、スギ材の現しを実現している。また、南側建屋の2階床スラブを支える梁は、1時間耐火の木質耐火梁を使用している。

◇体育館内部の架構を秋田スギの現しの木造タイドアーチで実現した大空間は、力強さと軽やかさを兼ね備えているほか、街に対して閉じたものになりがちな体育施設を、線路側に窓を設け、車窓から中の活動も含め、木造空間が見える造りとしていることなどが評価されました。

施主	東日本旅客鉄道株式会社秋田支社
設計者	秋田駅東口プロジェクトに関わる設計共同企業体
施工者	第一建設工業株式会社
構造	混構造（木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造）
階数	地上3階
延べ面積	3,545.0㎡
木材使用量	252.2㎡
主な使用樹種	スギ

株式会社秋田スズキ本店・本社屋 [秋田市]



【施設の概要】

自動車ディーラーの本店ショールームとして、秋田らしさや親しみやすさを備えた、入りやすく居心地のよい空間を目指し、積極的に木質化を図っている。同社のモットー「乗り物で幸せ運ぶ」を、曲げわっぱをイメージした4つの輪として照明も兼ねた天井装飾で表現。柱や壁の木製リブはスギ材を使用している。すっきりした外観と、木質化による暖かみのある内装のギャップも楽しめる、おもてなし空間を実現している。

◇一見、自動車ショールームと木質化とは相反するイメージがあるが、見事に融合させ、明るく気持ちのよい空間を実現していることが評価されました。

施主	株式会社秋田スズキ
設計者	株式会社松橋設計
施工者	加藤・小南・長谷駒特定建設工事共同企業体
内容	内装木質化
延べ面積	6,116.9㎡
木材使用量	0.8㎡
主な使用樹種	スギ

石倉山公園管理棟展望台 [三種町]



【施設の概要】

平成13年度に石倉山公園内に整備され、修繕が必要となっていた木造展望台を、利用者や地域住民の強い要望を受け、安全性を高めた堅固な構造として木造でリニューアル。キャンプ場やバンガロー、遊歩道を備えた森林公園内にありながら、施設自体が観光名所となり、森林浴や自然体験学習の場として町内外から親しまれている。

◇メンテナンスも込みで木造を採用した取組で、清水寺を思わせるような特徴的な架構や、床や手摺りの圧倒的な木材の存在感が評価されました。

施主	三種町
設計者	小林二級建築設計事務所
施工者	石井工業株式会社三種本店
構造	木造
延べ面積	193.2㎡
木材使用量	27.5㎡
主な使用樹種	ベイマツ、ヒバ

有限会社石孫本店母屋及び作業蔵 [湯沢市]



【施設の概要】

安政二年から続く味噌醤油の蔵元であり、登録有形文化財の作業蔵を使用して、昔ながらの手造りの醸造を続けている。こうした醸造方法や建物を後世に残すべき日本の文化と捉え、作業蔵や母屋を復元改修。体験メニューを実施できるスペースや直販コーナーも設け、発酵ツーリズムの発信拠点施設としている。

◇古くていいものを現代でもしっかり使えるように再生するプロジェクト。地道ではあるが真摯に取り組み、かつ新たな工夫も取り入れていることが評価されました。

施主	有限会社石孫本店
設計者	株式会社小田島工務店一級建築士事務所
施工者	株式会社小田島工務店
内容	リノベーション
延べ面積	404.6㎡
木材使用量	26.2㎡
主な使用樹種	スギ、クリ、ベイマツ

秋田県木材利用促進条例について

いろんなところで「木づかい」＝“ウッドファーストあきた”を広げよう！

平成28年4月に「秋田県木材利用促進条例」がスタートしました。この条例は、木材の利用の促進に関する施策を総合的に推進し、県内の林業・木材産業の振興を図り、本県経済の活性化に寄与することを目的としております。

【基本理念】

- ・森林所有者や林業・木材産業事業者による創意工夫及び自主的な取組が促進されること。
- ・県、市町村、森林所有者、林業・木材産業・建築関係事業者、県民など、木材利用に関係がある者が相互に連携・協力して推進されること。
- ・秋田県の森林資源を積極的に活用することにより、県土の保全、地球温暖化の防止など森林の有する公益的機能の維持管理が図られること。

【関係者の役割と協力】

- ・県は、総合的な施策を策定、実施する。
- ・森林所有者、林業事業者は、森林の適切な整備と保全、及び木材の計画的な供給に努める。
- ・木材産業事業者は、県内の森林から産出する木材の利用に努める。また、県産木材製品の国内での販売及び輸出の促進に努める。
- ・建築関係事業者は、事業活動を通じて、県が実施する木材の利用の促進に関する施策に協力するよう努める。
- ・県民、一般事業者は、木材の優先利用及び県産木材の利用の促進が本県の経済の活性化に資することについての理解を深めるとともに、日常生活及び事業活動を通じて、県産木材製品の利用に協力するよう努める。

【目的達成のための施策【3本柱】】

- 1 木材の優先利用（ウッドファースト）の促進
 - ・県民の日常生活及び事業者の事業活動における木材の優先利用の促進に必要な施策
- 2 県産木材の利用の促進
 - ・木材産業事業者による県内の森林から産出する木材の利用の促進に必要な施策
 - ・県民等による県産木材製品の利用の促進に必要な施策
- 3 県産木材製品の国内販売及び輸出の促進
 - ・木材産業事業者による県産木材製品の国内での販売及び及び輸出の促進に必要な施策

【施策の推進方法】

- ①関係者による協力体制の整備 ……秋田県木材利用促進委員会の設置
- ②市町村が行う施策への協力
- ③木材の利用の促進に関する指針の策定
- ④木材の利用の促進に関する県の施策の実施状況報告の公表

※秋田県木材利用促進条例及び指針の概要や、これまでの県の施策の実施状況については、秋田県公式サイト「美の国あきたネット」の次のページをご覧ください。

○サイト内の掲載ページ： 部署別 — 農林水産部 — 林業木材産業課 — 木材利用推進班

- ・秋田県木材利用促進条例について
URL： <https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/10716>
- ・木材利用の促進に関する指針の策定について
URL： <https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/23191>
- ・木材の利用の促進に関する県の施策の実施状況
URL： <https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/30643>

第1回 ウッドファーストあきた
木造・木質化建築賞

URL:<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/55733>

問合せ先：秋田県 農林水産部 林業木材産業課 木材利用推進班
TEL：018-860-1915 FAX：018-860-3828
E-mail：rinsan@pref.akita.lg.jp

発行年月：令和3年3月

